

## 第2回病院連絡会結果の概要（北河内二次医療圏）③

### 4 その他今後の医療提供体制のあり方に対する意見

- 圏域の病床を回復期に転換することには異論はない。
- 一概に急性期病床が過剰というのではなくて、疾患毎の診療機能によって病床機能の転換を考えてもよいのではないか。例えば、高齢者骨折等に対応する急性期医療などは需要があるのではないか。
- 回復期や高度急性期医療は、増床してでも機能を確保したい医療機関が複数ある一方で、一部地域では回復期医療の不足感がないという意見もある。
- 回復期医療に転換を図っても病院間の連携システムが機能しなければ病床が埋まらないため、急性期から回復期・慢性期医療へつなぐシステムが重要ではないか。
- 慢性期医療について、医療区分を保つために重症な患者を一定数受け入れておく必要があり、こうした患者は在宅・施設等でケアするのが難しいため、転院先の確保が困難で、在院日数が長く、病床を回転させることが難しくなっている。
- 医師確保には、世代交代（特に常勤医）が大きな課題。大学医局の人事に頼るだけでは医師確保は難しい。

### 5 その他病院からの説明等

| 区分<br>4 民間等 | 保健所   | 市町村 | 医療機関名            | 許可病床数<br>(一般・療養) | 病院からの説明等  |
|-------------|-------|-----|------------------|------------------|---|
| 4 民間等       | 守口保健所 | 守口市 | 医療法人清水会 鶴見緑地病院   | 143              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、回復期リハビリテーション病棟入院料1（回復期）89床、急性期一般入院料4（急性期）16床、地域包括ケア入院管理料（慢性期）38床の計143床で運用しているが、平成30年度の平均稼働率は96.4%となっており、周辺医療機関からの患者受入れが困難な状況にある。</li> <li>・地域医療の使命を果たすために新築移転を機に、回復期89床を150床に、地域包括ケア38床を33床とし、計56床を増床し、合計199床での運営を目指している。</li> <li>・2025年4月までに新病院での稼働を開始する予定。</li> </ul> |
| 4 民間等       | 守口保健所 | 守口市 | 社会医療法人彩樹 守口敬仁会病院 | 185              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・急性期一般入院料1（急性期）病床からの受け入れ先としての地域包括・リハビリ療養病床増床や老健施設の併設を考えている。</li> <li>・心臓外科、呼吸器内科など急性期医療の役割を充実させるため、大学病院と連携を取り人員のリクルート活動を行っている。</li> <li>・数年後の新築移転を考えている。</li> </ul>  |
| 4 民間等       | 枚方市   | 枚方市 | 医療法人りんどう会 向山病院   | 85               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・回復期リハビリテーション病棟入院料1（回復期）及び地域包括ケア入院管理料1（急性期）病床を中心に、ポストアキュート・サブアキュートを推進していく。</li> <li>・回復期リハビリテーション病棟入院料1（回復期）及び地域包括ケア入院管理料1（急性期）病床の増床はあるが、時期及び転換病床数については診療報酬改定の内容を見ながら検討する。</li> </ul>  |
| 4 民間等       | 四條畷   | 大東市 | 野崎徳洲会病院          | 216              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・急性期から高度急性期（ICU）へ4床転換し、回復期を150床増床したい。</li> <li>・将来的に、医療需要が減少するため増床することが困難なのであれば、期間限定で増床を認めるなどの柔軟な対応をお願いしたい。</li> </ul>   |